

事業計画書

3

1. 事業名称

ユースボランティア育成を通じた、
子ども会・子ども地域活動の担い手支援モデル事業

2. 実施主体

- 団体名： 特定非営利活動法人こばていー子ども参画イニシアティブ
- 事業担当課： 青少年課

3. 取り組もうとする課題（テーマ）と事業

課題：地域での人間関係が希薄化したことにより、親・先生以外の人間との交流の場・機会が減少している。子どもたちの豊かな育ちを実現するため、大きな柱である地域の中での人間関係を再構築する。

■現状

子どもの育ちにおける、親・先生以外の人間との交流－「ナナメ」の関係の大切さ

子どもの育ちにおいて、親・先生以外、つまり家族・学校以外での人間関係は、大きな影響を及ぼす。内閣府発行の平成20年版青少年白書において、Benesse 教育研究開発センターによる「若者の仕事生活実態調査報告書」が引用されており、小中学校時代に「親や学校の先生以外の大人と話すこと」があった若者ほど「仕事における態度・能力に自信をもっている」という関係性が指摘されている。

就労の側面だけでなく、学校教育からのニーズもあり、文部科学省（初等中等教育局児童生徒課）のもと設置された「子どもを守り育てる体制づくりのための有識者会議」が平成19年に出した提案にも、地域の人間関係が述べられている。同会議では、学校におけるいじめ問題を背景として、社会全体で子どもを育て守るためには、親でも教師でもない第三者と子どもとの新しい関係＝「ナナメの関係」をつくるのが大切、と指摘しており、同じ目線で話すことのできる、子どもの活動の担い手が求められている。

松戸市行政における総合計画の実施計画、および次世代育成支援行動計画としての取り組み

松戸市行政においても、学校外活動の減少に伴う支援の必要性が認識されており、豊かな人格の基礎を形成する青少年期に学校外活動が行われやすくするため、地域環境の整備を進める計画となっている。

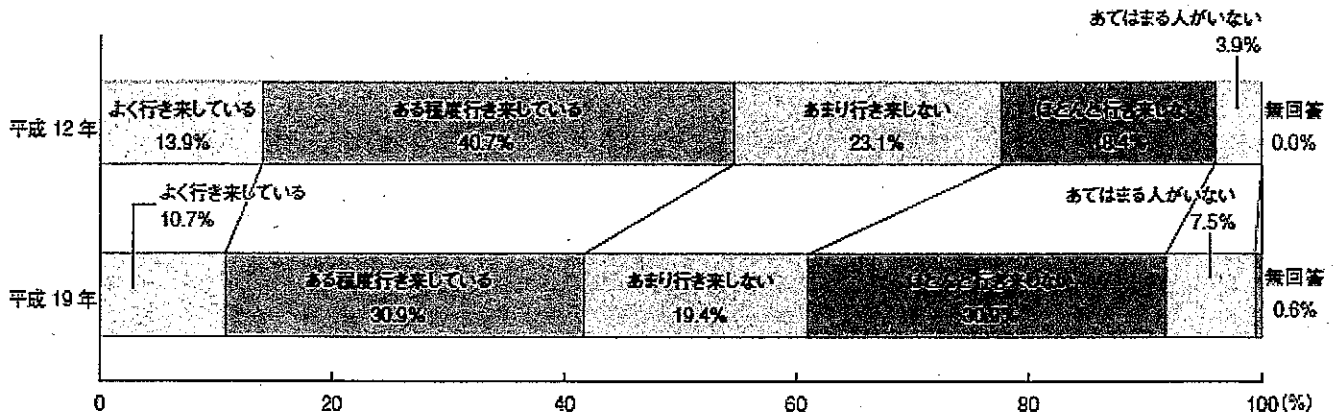
松戸市総合計画第2次実施計画において、第3節第5項「青少年の健全育成」として、その中で「子ども会等の活性化対策事業」が実施された。第3次実施計画でも同箇所「青少年自立支援事業」として、青少年団体活動や地域活動に対する相談・情報提供の充実、指導者などの養成に努め、子ども会への加入呼びかけなどを通じて、青少年が地域活動に参加する機会を増やすとなっている。

また、次世代育成支援行動計画では、地域主体で行われることを期待している「公園の有効活用」があり、子ども会などの協力を得て有効に活用してもらいたいという項目が設けられている。

■問題点

子どもを取り巻く、地域での人間関係の希薄化

子どもの成育に重要な環境である地域社会は、ここ数年でも関係が希薄化している。上記 20 年度版青少年白書で取り上げられている例では、平成 12 年からの 7 年間で近所づきあいを「ある程度行き来している人」は全体の半数を切っている。

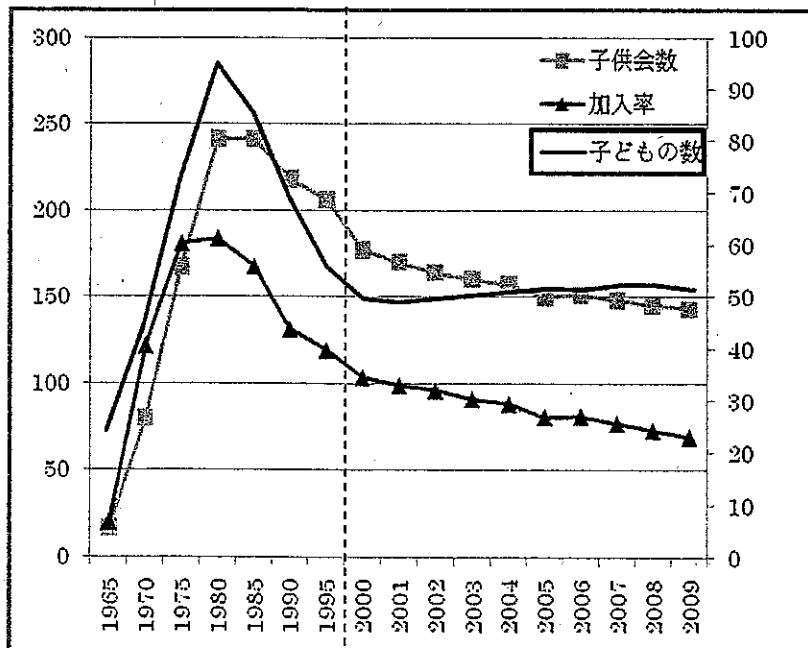


資料：内閣府国民生活局「国民生活意識調査」

子どもの地域活動の担い手の不足と、子ども会活動など地域活動の停滞

人間関係の希薄化にも見られるが、親・先生以外の人と出会う場が、子どもたちの行動範囲としての「地域」に求められているにもかかわらず、ある程度交流している人の割合は 4 割程度にとどまっている。

現状、松戸市の子ども会の加入率は年々低下しており、平成 20 年度では 25% を割っている。この低下の原因として、子ども会の役員になった場合の負担と、子どもの体験の質・量とのバランスが、保護者にとって年々つりあわなくなっているのではないかと推測される。また、単位子ども会の数自体も減少傾向にあり、地域活動を体験している子ども・担い手となる大人の両方とも減少している。



提供：松戸市青少年課

1995 年までは 5 年おき、以降は年次のデータをプロット。

子どもの数が、2000 年以降、横ばい上昇気味なのに対し、子ども会の数（左軸）・加入率（右軸パーセンテージ）ともに低下している。

■事業＝ユースボランティア育成を通じた、子ども会・子ども地域活動の担い手支援モデル事業

本事業では、子どもたちが、気軽に行ける行動範囲にある、年齢の離れた子ども同士・子ども一若者の交流の場である子ども会に改めて着目し、10代後半から20代を目安とした若者をユースボランティアとして育成する。

ユースボランティアが子ども会の活動に参画することによって、地域活動の担い手の負担を軽減するとともに、親世代と共に協力することでより魅力的な社会体験を、主に小学生世代の松戸市内の子どもたちに提供する。

本事業の効果として、高校や大学・職場など、育った土地と離れた場で生活する10代・20代で、子どもたちと正面から向き合うスキルをもったユースボランティアを地域に輩出することで、行動範囲を広げられない小学生の体験活動を豊かにする。

4. 事業目的と成果目標

本事業では、

- 10代後半から20代を目安とした若者を、ユースボランティアとして育成
- ユースボランティアが子供会の活動に参画し、地域活動の担い手の負担を軽減する
- スキルをもったユースボランティアの参画によって、小学生の体験活動を豊かにする

の3点を目的とし、本事業をモデル事業として位置づけるにあたって、10代・20代の「ユース」、各地で地域活動に取り組んでいる「単位子ども会」の二者を対象に取り組む。

ユースへのボランティア育成プログラムは、NPO法人こばていが延べ80回以上にわたって培ってきた小学生の年代の子どもとの向き合い方、異年齢で交流する際に注意するゲーム・レクリエーションの選択の仕方、緊急対応などを元に構成する。また、外部講師を2回招き、より専門的・学問的視点からの子どもとの関わり方を学ぶ場を設け、より多くのユースの関心を引き付ける。各回のテーマは「子どもの遊びと発達・知育の関係」「ADHDなど、多様な子どもたちの受け入れ方」を想定し、事業企画通過後に、大学・NPOから講師を確定する。

また、異年齢交流に適した遊びを、ユースボランティアと共にレクリエーションブックとしてまとめることで、モデル事業では実施できなかった単位子ども会へのプログラム支援を行う。

波及効果として、若者ボランティアにとって、学校や会社と違った地域の間の中で必要とされる場を提供できるとともに、地域で子供会の運営をしている保護者の準備・負担の軽減をどこまで実現できるか、モデルケース化できる可能性を探る。

単位子ども会に対しては、数回のヒアリングを通じて、ユースボランティアのサポートをより有効に発揮できる場面を探ると共に、モデル事業としてユースボランティアと共に企画・立案を行う場合、また企

画・レクリエーション内容は完全にユースボランティアが組む場合など、多様なパターンを想定し取り組む。

前記の事業目的に対する成果指標を、下表のように設定する。

対象	指標
ユースボランティア	15人を目標として、広報・育成する 講座参加者による、レクリエーションブックの制作・配布
単位子ども会	事前のヒアリングによる活動継続の課題把握 モデル事業として2地域（単位）でイベントを協働で実施 アンケートなど、ふりかえりによる負担軽減の把握
小学生（子ども）	イベントに参加した小学生の感想による満足度調査 モデルイベントにおける子ども会未加入者との接点づくり (指標としては、イベントへの未加入者の参加数)

他の分野においても見られるが、子どもの分野でも地縁団体とNPOと行政の三者が共に集まり、考えて、共に汗を流す事業は実現が困難であった。本協働事業の枠組みを利用することで、新しい協働型の子どもを育てる地域環境の一步を踏み出すことができる。

5. 協働の意義

提案者のメリット

これまで設立当初より80回以上実施してきた「あそぼう会」の運営ノウハウを、市内の子どもたちに広く届けることができる

小学生の体験活動の企画・実施に対して、ユースが取り組むためのスキルを身につけ、場を提供することで、若者の社会参画の実現につながる

今までの活動では、保護者との関係は参加者の進学とともになかなか地域の中でつなげていくことが難しかったが、子ども会という組織を支援する関わりを持つことで、地域の保護者の自らの団体に対する理解が、継続的に広がる可能性につながる。

市のメリット

松戸市総合計画上の、青少年の健全育成を実現する場のひとつである、学校外活動が行われやすくなる地域環境の整備が実現する。

その1つとして、現在加入率の低下している子ども会に対して、子ども会等の活性化対策事業として、青少年課だけでは実現できない手法で、単位子ども会の支援を行うことができる。

また、次世代育成支援行動計画上で、地域主体で期待している「公園の有効活用」に対し、活用する主体である子ども会による公園の活用方法を広げることができる。

協働することによる利点

上述したように、行政の持つ情報発信力と、NPO 法人こぼていの持つ企画実施力・人材育成力を組み合わせることで、NPO・行政単体では実現がむずかしい領域である、子どもの地域体験環境の改善に取り組むことができる。

6. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

事業全体のマネジメント

ユースボランティアの育成

単位子ども会へのヒアリング

単位子ども会とのモデル事業の実施

企画会議などの運営

中学校・高等学校などに協力依頼に伺う際に、日程の合う限り青少年課と同行する

■ 市の担当課の役割

青少年課（教育委員会部局）

本事業実施における、公共施設会場の確保

松戸市子ども会育成会連絡協議会との本事業に関する事務局としての調整・情報共有

* 子ども会 13 地区長を通じた、単位子ども会への一斉情報発信

* モデル地域の選定した際の、当該地域単位子ども会への呼びかけ

中・高等学校などへのユースリーダー育成講座の広報媒体配布依頼、および連絡便経由の広報媒体配布

* 単位子ども会とのモデルイベント実施時の、該当地域小学校でのイベントチラシの全校配布依頼

以上と合わせて、随時状況について共有し、成果の活かし方を検討する場を、提案者・担当課で設ける。

7. 事業の具体的なスケジュール

- 10代後半から20代を目安とした若者を、ユースボランティアとして育成
- ユースボランティアが子ども会の活動に参画し、地域活動の担い手の負担を軽減する
- スキルをもったユースボランティアの参画によって、小学生の体験活動を豊かにする

の目的に向け、ユースボランティア、単位子ども会、そしてネットワークを持つ松戸市子ども会連絡協議会（市子連）、および市行政の動きを、表にまとめた。

対象	ユースボランティア	松戸市・市子連	単位子ども会
H22/4月	ユース「ゲームリーダー育成」春組-1	近隣学校へのモデル事業への協力依頼	協働事業会誌、モデル事業募集のお知らせ
5月	ユース「ゲームリーダー育成」春組-2 学習会「子どもと遊びと創造性（仮題）」	市からの公募呼びかけ	（後半） 2団体へのヒアリング モデル派遣先公募開始
6月	ユース「ゲームリーダー育成」春組-3	市子連ヒアリング	
7月			モデル派遣先子ども会との顔合わせ
8月	学習会「多様な子どもたちを受け止めるには」 ユース「ゲームリーダー育成」夏組-1 ユース「ゲームリーダー育成」夏組-2		モデル派遣先子ども会との企画会議
9月	ユース「ゲームリーダー育成」夏組-3		単位子ども会での企画①
10月	大規模な企画の立て方と役割分担の実習		
11月			
12月	レクリエーションブックの作成		単位子ども会での企画②
H23/1月		施策的な意味合いの検討	
2月			随時成果のふりかえり アンケート調査
3月	成果まとめ	成果まとめ	単位子ども会での企画③

項目4に述べた内容の再掲になるが、以下の構成で事業を実施する。

ユースボランティアの育成に関しては、春季と夏季の2期、同様の講座を実施する。各期の受講生が一緒になって、レクリエーションブックの作成を実施し、成果を広く共有できるようにする。

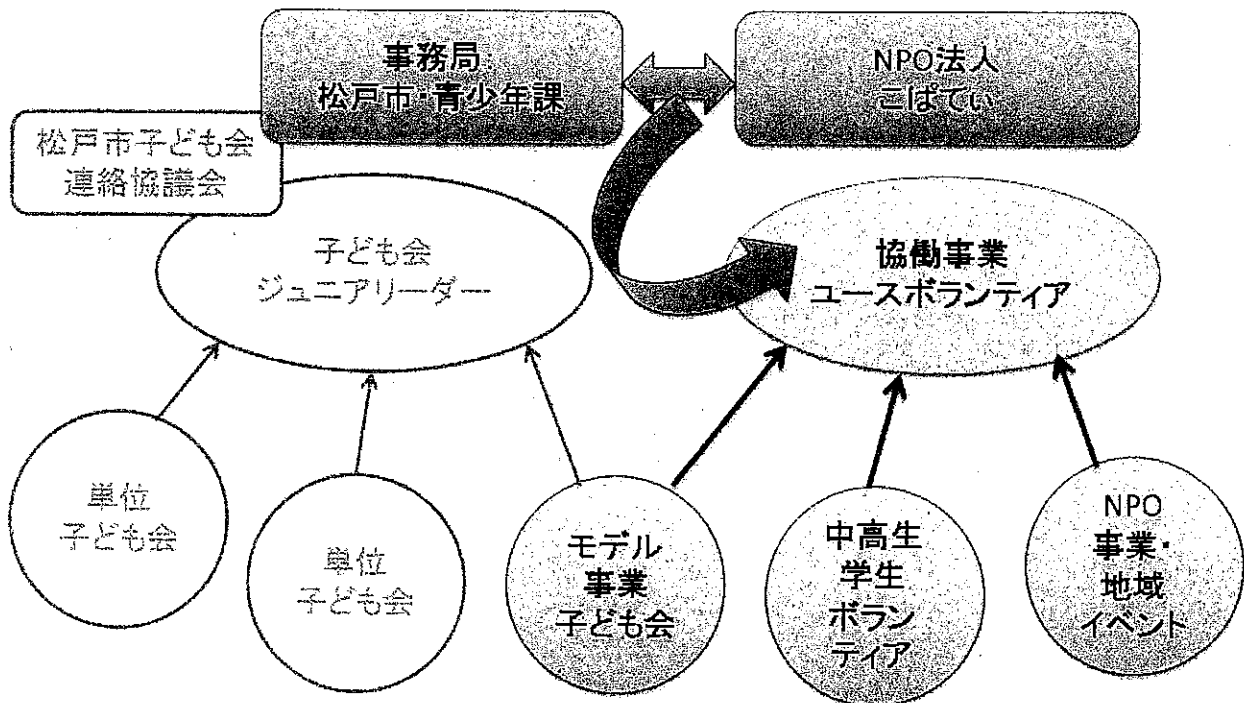
子ども会に向けた活動としては、担当課の青少年課が事務局として調整を図り、単位子ども会2団体のヒアリング、および市子連のヒアリングを行う。ヒアリングと並行して、ユースボランティアとのイベント実施に取り組みたい子ども会の募集をかけ、モデル派遣先を決定する。

モデル派遣先子ども会のイベントは、子ども会会員だけではない地域の子どもたちが参加できるような体制をつくる。イベントの準備段階から、講座を修了したユースボランティアが共に企画段階から取り組む。イベントは、各地域で行われているクリスマス会などをより規模・内容を充実して取り組む形態や、まったく新しいイベントを企画する場合など、NPO法人こばていがコーディネーター的立場として関わることで、地域の単位子ども会のニーズとユースボランティアの負担のバランスを取りながら進めていく。

8. 将来の展開

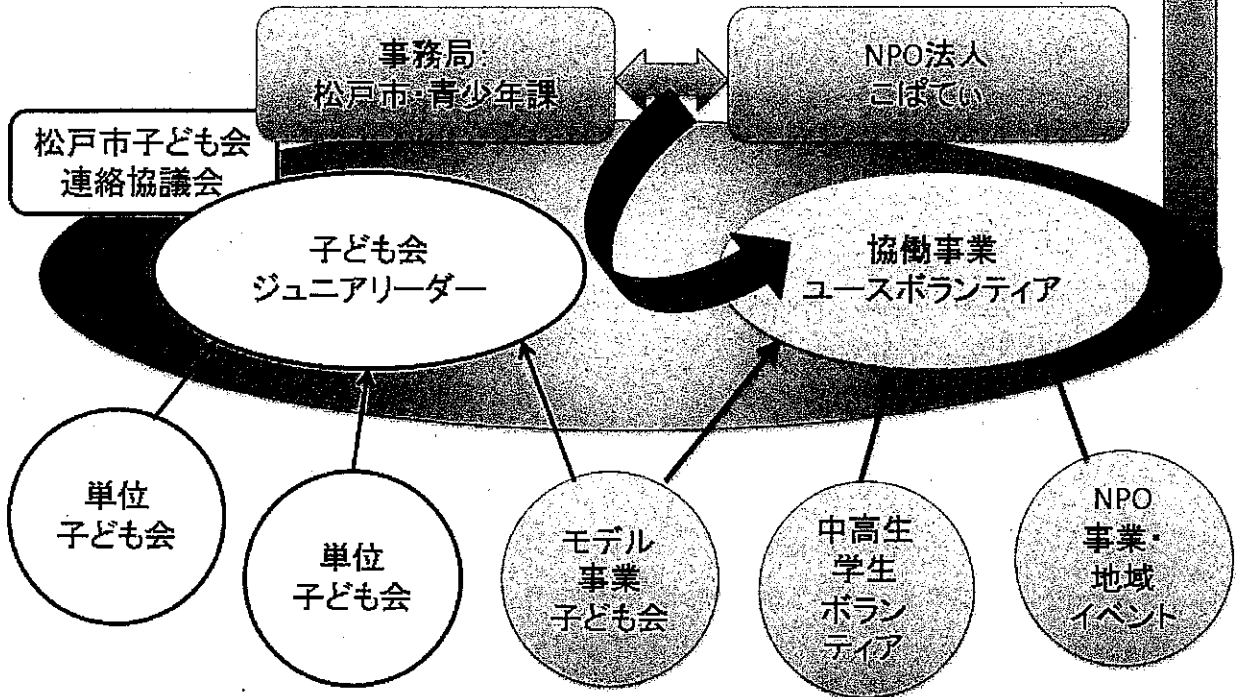
指導者などの養成に努め、家庭・地域・行政が一体となった取り組みを推進し、学校外活動が行われやすくする
(松戸市総合計画/第3次実施計画)

異年齢集団を形成し、小学生の体験活動の充実と、ユースの地域活動スキル向上の場を提供を通じて、子ども・若者の社会参画を実現する (ミッション)



協働のメリット・相乗効果

- 子どもの地域活動の担い手として、ユースボランティアを育てる
- 地域のつながりによって、子どもの学校外における豊かな育ちの場を実現する



本モデル事業の成果として、ユースボランティアという人的資源およびスキル・ノウハウの伝播、また単位子ども会へのヒアリングとモデルイベントの実施を経た、保護者とボランティア、地域とNPOの信頼関係の構築があげられる。継続していけばより多くのユースボランティアを輩出し、単位子ども会の支援を行うことも可能になるのは確実だが、単年度であっても、その後も地域に好影響を残すことができる。

将来的には、現在策定中の次世代育成支援行動計画の合致する施策と合わせて進めていくことで、教育・生活の一環として子どもの地域体験の拡充を捉え、協働事業でのノウハウやデータを行政施策にフィードバックすることができ、協働事業として時限でモデル事業として取り組む価値は十分にある。

また、子ども会の抱えるジュニアリーダー・シニアリーダーという、OB・OGが自らの経験をスキルとした支援者グループと、互いのスキル・視点のあり方を交えながら進めていくことを目指す。ゆるやかな相互発展的ネットワークを形成できるよう、関係者との交流・議論を積み重ね、多様かつ多くの地域活動の担い手の育成につなげていく。

事業の予算概要

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

提案者	（自己資金）	金 額	積算内訳
			26,030 円
	自己資金合計（a）	26,030 円	
	労力換算額計（b）	199,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	225,030 円	
資金合計額（d）（a+c）		251,060 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内 90%→225,954
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

項 目		金 額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	60,000 円	学習会講師2名、30,000円
	印刷製本費	73,800 円	チラシ、中綴じゲームブック
	消耗品費	48,000 円	プリンタインク、A4用紙他
	使用料	6,000 円	学習会ほか会場手配
	通信費	16,000 円	80円×200箇所（子供会140ほか）
	保険料	8,000 円	スタッフ保険
	交通費	39,260 円	講座・実習・編集会議など
対象となる経費合計額（e）		251,060 円	
その他経費			
	その他経費合計額（f）	0 円	
事業費（g）（e+f）		251,060 円	収入合計額（d）と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	ゲームリーダー講座 (座学)	5,000円	1人×5時間×2回×500円
	ゲームリーダー講座 (実習)	20,000円	2人×5時間×4回×500円
	イベント企画実習	30,000円	3人×5時間×4回×500円
	子供会・市子連ヒアリング	6,000円	1人×4時間×3回×500円
	月例スタッフ会議	72,000円	4人×3時間×12回×500円
	担当課との月例協議	18,000円	1人×3時間×12回×500円
	ゲームブック作成	48,000円	6人×4時間×4回×500円
	合計 (b)	199,000円	